

パネルディスカッション

竹下氏 「オール静岡」に
なぜ取り組めないか。

星野氏 誰かやってくれる
と思っっている。静岡はいい所
が点在しているが、それを線
で結ぶことが苦手だ。イベン
トもキャンペーンで終わりが
ルチャールになっていない。ラ
グビーワールドカップ（W
杯）の翌年には東京五輪があ
る。ビジネスチャンスは一転
転がっている。袋井で行われ
るW杯で最悪なシナリオは外



星野氏

国人などの観戦客が東京に宿
泊してしまうことだ。それで
は意味がない。広告代理店時
代の経験で企業にはラグビー

が好きな人は必ずいる。そう
した人を発掘し、一つに集め
てアイデアを出させたら面白
いアイデアが出てくる。全員
がプロデューサーになれる。
静岡は受け身の人が多くプロ
デューサー不在。もったいな
い。

渡村氏 ノーサイドという
言葉は知っているがラグビー
はよく知らない。藤枝はサッ
カーの町として知名度がある
が、ラグビーも距離をもっと
縮める工夫が必要だ。その藤
枝もサッカーで町おこしをと
いう話が何年も前からあるが
広がらない。いくつか理由は
あるが、例えばあのパスは良
かったとかあの試合は良かった
とか専門的な話になってしま
う。女性には難しい。でも
スポーツマンシップやチーム
ワーク、礼儀が正しくなると
か美学的なものに置き換える
と共感する。そうしたことに

プロデューサー発掘不可欠

変換できる「通訳者」が必要だ。
竹内氏 私は観光の先にあ
るの定住だと理解してい
る。日本は既に移民大国だと
いう調査があり、世界で4位
の移民の数になっている。受
け入れる土壌をつくることは
観光だけでなく、移民の人た
ちの定住先になる。そういう
意識を持つことが大切だ。
竹下氏 今取り組んでいる
ことを伺いたい。



渡村氏

渡村氏 藤枝の地域資源を
活用した体験型イベント「藤
枝おんぼく」をやっている。
現場でやっていることが通じ
るものがあるのでお話させて
いただく、おんぼくは「藤
枝温故知新博覧会」というこ
とで古きを訪ね新しきを知る
ということを取り組んでいる

が、「新」はタイムライン的
な新しさではなくてアイデア
とか視点の新しさ、新しい視
点で地域を眺めるという意味
で名付けた。外から来た人の
評価を受け自分たちの良さに
気づく仕掛けでもある。

竹内氏 当たり前の話だ
が、おらが町いいところだか
ら来いよと言えない街には行
きたくはない。交流を生み出
すうえで必要なことは、その
人たちがいい街だと思ってい
ないと実現しない。ただどう
やって生み出すかは簡単な問
題ではない。色々悩んでいる

◇パネリスト

星野 明宏氏 静岡聖光学院中・高副校長
渡村 マイ氏 一般社団法人SACLABO
代表
竹内 佑騎氏 竹屋旅館代表取締役

◇コーディネーター

竹下誠二郎氏 静岡県立大学経営情報学部長
(当懇話会研究委員)

が、外からの目が必要だということとはよく言われている。とにかく違った視点をたくさん入れようとしている。その試みとして外国人と触れる機会を設け、最後にあなたなら



では静岡の観光ツアーを出してほしいという、びっくりするものが出てくる。
星野氏 W杯のイタリア代表は試合の前後に静岡市でキャンプをやる。そのイタリ

アがものすごい日本ブームだと聞いている。贈り物で一番人気はワサビだそう。まさにJR静岡駅北から県庁、市役所、青葉通りはワサビによるイタリア祭り。抹茶も人気があり、中部地域全体を抹茶エリアとして思い切りできればいいと思う。イタリア人は日本人が大好きなのに日本人はイタリアの愛に全く気付いていない。同じように静岡県民も静岡の良さに気づいていない。私たちのように東京から来た人間は静岡は本当にいいなと思う。もう一度、静岡の良さを見直した方がいい。ビジネスチャンスをすくく逃していると思う。

竹下氏 具体的にどうすればいいか。

竹内氏 食のバリアフリーというものに取り組みんでいる。食のバリアフリーをクリアするために必要なものがないか。普通だと美味しい牛肉を探しに行くが、カロリーが低い牛肉を探さず。カロリーが低い牛肉があるのかというところ。静岡県が食材日

街づくりにW杯手段か目的か

本一の県であることに加え、健康長寿に静岡県が取り組んでいたこともあり、様々な食



竹内氏

材が開発されている。健康という切り口で食材を探したら9割が静岡産だった。そんな県は世界を見ても静岡しかない。今あるものを掘り起こし、積極的に活用すべきだ。

渡村氏 ラグビーワールドカップを目的と取るか、それとも手段と考えるか。街づくりを目的化していつてしまった結果、最後何も残らないということがよくある。開催自体が目的化してしまうと何となく疲弊して続けていくのがしんどくなる。目的なのか、手段なのかをしっかりと考える必要がある。街づくりもまずモール街を作ろう、次に温泉をつくらう、その後に関

流させよう、人が流れるようにしようではとても苦勞するし、不自然な街づくりになる。何が需要として必要なのか、観光客は何に感動しているのか、何が地域の売りなのか。まずそうしたソフト面を把握する。もちろんそこには分析が必要だが、ソフト面からハード面をつくることは理にかかっている。時間と労力がかかるが、そういった街づくりにしないと結果的にゴーストタウン化している所はハード面が先行してしまっていた。

先程、星野さんがイタリアではワサビが人気だと言われた。街づくりサイドで考えると、一斉にワサビメニューが駅前にはび、イベントが終わったら一切なくなるのではなくて、どうしたら定番メニュー化して喜ばれるものになるのかというところまで考える必要がある。お店の売りの商品になったり、経済的に循環するタネになったりすることがすごく大事。そのためにはどういった人をコーディネート

ネットしていくか、色々な人と盛り上げていくにはコイデイナーが最も重要だ。

熱意がないとお金もただのお祭りに使い果たしてしまうのか、そうではなく地域への投資になるのか、大きな分かれ目だ。

竹下氏 「おもてなし」とは何か。



竹下氏

竹内氏 私たちが陥りがちなことはおもてなしを押し付けること。難しい問題だが、押し付けにならないかということを中心に心がけたい。

竹下氏 最後にアドバイスをお願いしたい。

星野氏 高校ラグビーで静岡聖光が花園に行ったとき、まず最初にやったことはとにかく根拠のない自信を持たせることだった。なぜかというと

東海大翔洋が強くて県選抜の練習に東海大翔洋15人、浜松工業8人、静岡聖光2人。帰ってきた選手に「東海大翔洋たいたことないだろう」と聞いたら「超格好良かった。一緒に写真撮った」と言った。これでは一生勝てないと思った。土俵が上がってないわけだから。大学受験でも根拠のない自信を持っている子供の方が合格する。

プロデューサーは既存の部署から出てくるものではない。まず身近にいるプロデューサーを発掘することをしてほしい。

渡村氏 アイデアや遊び心が大切で、好きな人がやるのが一番。熱意あるプロデューサーをコイデイナーとしていけばすぐ盛り上がっていくと思う。成功体験を重ねていくと自信になる。

竹内氏 食卓を通じた交流の機会を創出することが大事だと考えている。人とのつながりが究極な観光資源だと思う。

29年度事業報告など承認

静岡県中部未来懇定時社員総会

一般社団法人・静岡県中部未来懇話会は6月18日、平成30年度定時社員総会を静岡市葵区のホテルアソシア静岡で開き、29年度事業報告などを原案通り承認した。

総会には正会員127人の



うち代理、委任状提出を含め107人と賛助会員、特別会員が出席した。

冒頭、大石剛会長（静岡新聞社・静岡放送社長）Ⅱ写真Ⅱが「史上初の米朝首脳会談がシンガポールで行われ共同声明に署名しました。金正恩委員長は完全

非核化を約束し、トランプ米大統領が北朝鮮の体制を保障するという形で関係改善に強い意思を表明しました。朝鮮半島に残る冷戦構造が終わる可能性が出てきたとも言えますが、一方では1994年に合意し2003年に履行が破棄された前回の合意を考えると非核化の具体的な行程や検証方法が合意に至っていないことも含め実効性に大きな課題を残していると思っています。当分、北朝鮮問題には目が離せません。今後も中部未来懇話会は将来の静岡県のあり方について提言していきますのでご協力をお願いします」とあいさつした。

続いて平成29年度事業報告・決算報告を原案通り承認した。また、任期満了に伴う理事改選では全員を再任した。